

（西暦）2023 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること）

入院中の精神障害のあるクライアントの要望を実現可能な作業に結び付ける作業療法士のアプローチ－M-GTA を用いた質的研究－

学位の種類： 修士（作業療法学）

東京都立大学大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学域

学修番号 21896701

氏 名：大場 愛菜

（指導教員名：谷村 厚子）

注：1 ページあたり 1,000 字程度（英語の場合 300 ワード程度）で、本様式 1～2 ページ（A4 版）程度とする。

はじめに

2017 年に厚生労働省より「精神障害にも対応する地域包括ケアシステムの構築」の理念が明示され、精神障害を有する方等の困りごと、自己実現への想いといった、本人の意志が尊重される体制が構築していくことが求められている。そのため、作業療法士（以下、OT）にも当事者の関心事や自己実現への思いといった「要望」を尊重したアプローチが必要とされている。そこで、本研究の目的を入院中の精神障害のある CL の要望を実現可能な作業に結び付ける OT のアプローチの構造とプロセスを明らかにすることとし、意義は上記によって CL を作業参加に繋げ、地域移行を促進することで作業療法実践の発展に寄与することである。

方法

本研究のデザインはインタビューにてデータ収集を行った後、Modified Grounded Theory Approach（以下、M-GTA）を用いて分析を行う質的研究である。対象者の条件は精神科病院の病棟を担当した経験がある OT で A) 入院中の精神障害のある CL の要望に応じたアプローチを実践し、実現可能な作業に結び付けた者、B) オンラインか対面によるインタビューを受けることが可能な者とし、以下の①または②を A) の選択基準として、どちらかに該当する者とした。①周囲の OT が「CL の要望を実現可能な作業に結び付けたアプローチ」をしたことがあるとみなしている。②「CL の要望を実現可能な作業に結び付けた事例」を作業療法に関する学会で発表した経験、あるいは学術誌に投稿したことがある。インタビュー結果を逐語録化し、M-GTA を用いて分析した。

結果

11 名への半構造化面接の内容を分析した結果、概念が 61、サブカテゴリーが 10、カテゴリー 14 となった。精神科病棟で働く OT は CL の要望がたとえ荒唐無稽な内容であっても、【ありのままの思いの受容・理解】をし【要望の内容に応じた意見のすり合わせ】をした後、【要望を反映した目標共有・段階付け】をして【要望に合った活動を共に検討】、実施した後、効果を振り返るといった、【根気強いアプローチの継続】をしていることが分かった。

考察

対象者の語りから、CL の要望を実現可能な作業に結び付けるプロセスの大枠は共通し

ていたが、タイミングを見計らって、直接的・集中的に実施するアプローチと初期の段階から徐々に実施していき、要望に近づけていくといったアプローチの微細な関わりの差が存在していることが考えられた。また、結果で示された OT のアプローチが精神障害のある CL の思いをすくい上げ、作業を紡いでいき、地域移行を促進して、CL が作業的存在になることを支援出来るものとする。